

高齢者の人権

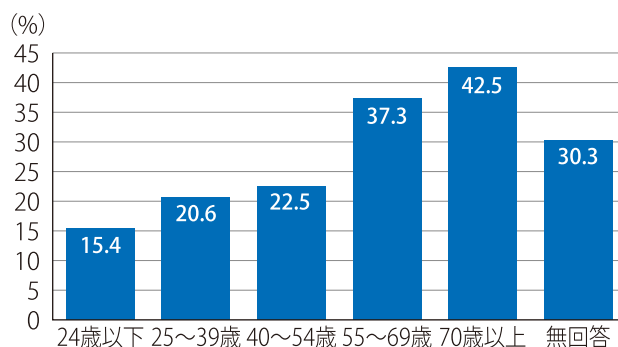
人権講座⑤
市民意識調査から

21世紀は「人権の世紀」と呼ばれています。市は人権を大切にすまちづくりをめざし、高齢者の人権問題についても考えてきました。

今回は、高齢者の人権問題を2012年11月に実施した「小郡市人権・同和問題市民意識調査」回答結果から見てみます。

右のグラフは、さまざまな人権問題の中で「高齢者の人権について関心がある」と答えた人の割合を年代別にまとめたものです。年代が高くなるにつれて高齢者の人権の関心が高くなっており、特に55歳以上で高い回答率となっていることがわかります。

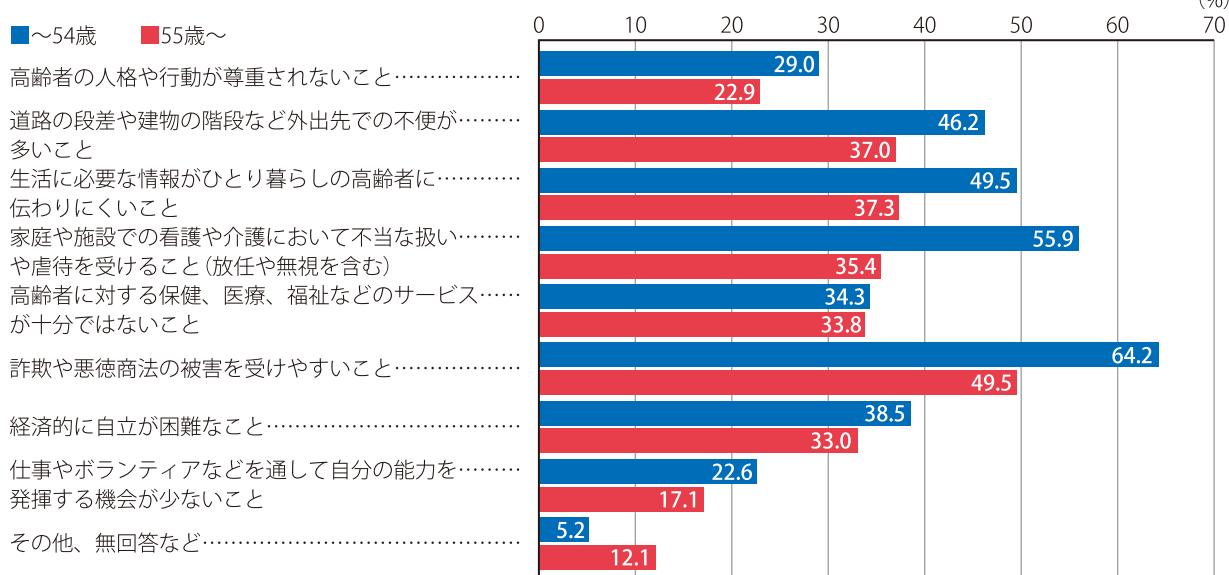
高齢者の人権に関心があると回答した割合(年代別)



若い年代の人たちは、高齢者の人権に関して意識が低いのでしょうか？

実はそうではありません。下のグラフは「高齢者の個別の人権課題で問題があると思うこと(複数回答)」について質問し、「54歳以下」と「55歳以上」で回答があった割合を比較したものです。

高齢者の個別の人権課題で問題があると思うこと(複数回答)



全ての項目で、55歳以上の人よりも54歳以下の人で高い回答率となっており、若い年代の人たちも高齢者の人権問題について関心が高いことが分かります。

この調査結果は、高齢者が抱えている問題について、あらゆる年代の人たちが一緒になって解決を図っていくことができることを示しているのではないのでしょうか。

高齢者が生きがいを持って生活できる地域社会

人は年をとってくると、心身の健康に不安を感じたり、社会的つながりが薄れていったり、経済的基盤や生きる目的が無くなったりする場合があります。高齢者にとって、人の役に立っているという思いは、自己有用感(誇り、役割感)につながり、生きがいとなる大切なものです。

私たちが住む地域で、お互いがつながりをつくり、孤立した高齢者がいないように見守っていく地域づくりを進めることが、今後さらに重要になってきています。

高齢者を支えるまちづくりを目指して

認知症をご存知ですか？～人ごとではありません!!～

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたために、物忘れや判断力の低下などのさまざまな障害が起こり、生活する上で障害が出ている状態（およそ6か月以上継続）を指します。

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気によるもので、85歳以上では4人に1人にその症状があるといわれています。誰もが認知症について正しい知識をもち、認知症の人や家族を支える手立てを知っていれば「尊厳ある暮らし」をみんなで守ることができます。



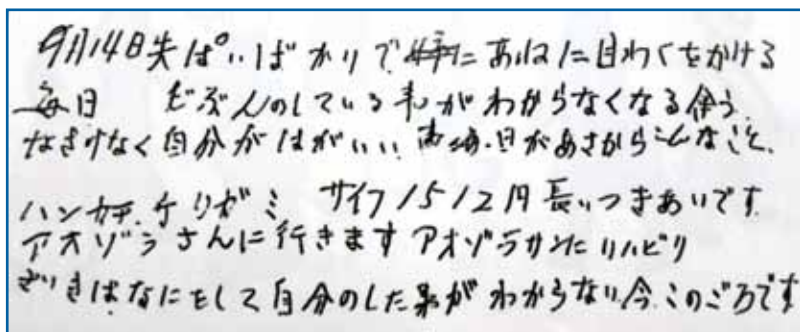
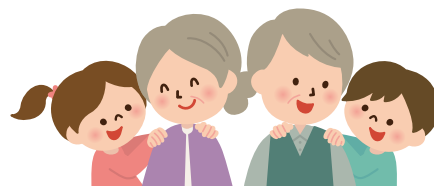
かかわる人の心がまえ～さりげなく自然に…が一番の支援～

1 驚かせない 2 急がせない 3 自尊心を傷つけない

この3つのことに配慮して、日常的にさりげない言葉がけを心がけましょう。

健康な人の心情がさまざまであるのと同じように、認知症の人の心情もさまざまです。認知症の人だからといって、つきあいを基本的には変える必要はありません。

「認知症の人」がいるのではなくその人が認知症という病気になっただけです。認知症の障害を補いながら「さりげなく自然に…」それが一番の支援です。



認知症の女性の日記

「あね」とは娘のことです。自分がどうなっているのか、どうなっていくのか、わからない苛立ちや不安な気持ちがつづられています。

書けない字が多くなったり、文章にまとまりがなくなったりするのは、認知症の症状によるものです。

認知症の人は、何もわからないのではありません。誰よりも一番心配で、苦しいのも悲しいのも本人自身です。認知症の人やその家族が、安心して暮らせるまちをみなさんで作っていきましょう！

出典：認知症サポーター養成講座標準教材（特定非営利活動法人地域ケア政策ネットワーク 全国キャラバンメイト連絡協議会作成）

●問合せ先 小郡市地域包括支援センター ☎72-7551



「防災メールまもるくん」で徘徊・行方不明者情報を配信しています

福岡県のメール配信システム「防災メール・まもるくん」では、4月より新たに「徘徊・行方不明者情報」の配信ができるようになりました。

認知症高齢者等が徘徊で行方不明となったときに、メール配信をした場合、メールを受け取った方が捜索に協力することで、行方不明者の早期発見・早期保護につながります。

ぜひ「防災メール・まもるくん」に登録して、捜索にご協力ください。



登録画面へ
アクセス

●問合せ先 介護保険課高齢者サービス係 ☎72-2111内線454